

物好乃海少袖らん花ハ咲多ク見牙の娘

と親だれいあつらふおそれ福をかゝりてもし人留つあの様
 におもひかゝりてかくは世のふ入つどくもあらうおそれ福は
 ちづめ入新も感へるやまのしそふれらふまふせ親
 一もお仲いふえ建あつらふ死まのほ勝はひふまふ家さ
 といと表向い主婦ふあて内代いふびくかりれてふつ
 りかどあひれお通ふふくつらるゝもふふお同あれたに
 ことおかりお福やひらうそれつくはふあふふれり
 といふ事と縁のおふひと親内代あらねた縁をふ
 もよりりそりそりて妹のおるつらあ何の足腰入
 縁よりうらうらとあふあつたかんやふと血氣はふ
 いとふ血脈はふらうらうらとふらふとふらふとふらふと

谷中れ且お寺のおるまてさうけふさあへく佛をてせらる
 少活すいふあのかもさうさあつさうともしも足すおひ
 もさくあひも代さうさあつさうともしも足すおひ
 わりふもほなれさあつらうと縁の口れあふさうひも
 ちより神さささうとさうとさうのひもね様ふはえとさうと
 細眉つてせお粉濃おつけくあお柳のぬりお座のぬれお
 けと縁のつなめらるれとて千あれお金とさあふの祇と懼
 ちいらと大抵さあふさうさうさうさうさうさうさうさう
 下れお腰る角縁の太招指うてあ角さうさうさうさうさう
 といふさうさうさうさうと太平さうさうさうさうさうさう
 乃内はあつらうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

卷之十一

12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 103 104 105 106 107 108 109 110 111 112 113 114 115 116 117 118 119 120 121 122 123 124 125 126 127 128 129 130 131 132 133 134 135 136 137 138 139 140 141 142 143 144 145 146 147 148 149 150 151 152 153 154 155 156 157 158 159 160 161 162 163 164 165 166 167 168 169 170 171 172 173 174 175 176 177 178 179 180 181 182 183 184 185 186 187 188 189 190 191 192 193 194 195 196 197 198 199 200 201 202 203 204 205 206 207 208 209 210 211 212 213 214 215 216 217 218 219 220 221 222 223 224 225 226 227 228 229 230 231 232 233 234 235 236 237 238 239 240 241 242 243 244 245 246 247 248 249 250 251 252 253 254 255 256 257 258 259 260 261 262 263 264 265 266 267 268 269 270 271 272 273 274 275 276 277 278 279 280 281 282 283 284 285 286 287 288 289 290 291 292 293 294 295 296 297 298 299 300 301 302 303 304 305 306 307 308 309 310 311 312 313 314 315 316 317 318 319 320 321 322 323 324 325 326 327 328 329 330 331 332 333 334 335 336 337 338 339 340 341 342 343 344 345 346 347 348 349 350 351 352 353 354 355 356 357 358 359 360 361 362 363 364 365 366 367 368 369 370 371 372 373 374 375 376 377 378 379 380 381 382 383 384 385 386 387 388 389 390 391 392 393 394 395 396 397 398 399 400 401 402 403 404 405 406 407 408 409 410 411 412 413 414 415 416 417 418 419 420 421 422 423 424 425 426 427 428 429 430 431 432 433 434 435 436 437 438 439 440 441 442 443 444 445 446 447 448 449 450 451 452 453 454 455 456 457 458 459 460 461 462 463 464 465 466 467 468 469 470 471 472 473 474 475 476 477 478 479 480 481 482 483 484 485 486 487 488 489 490 491 492 493 494 495 496 497 498 499 500 501 502 503 504 505 506 507 508 509 510 511 512 513 514 515 516 517 518 519 520 521 522 523 524 525 526 527 528 529 530 531 532 533 534 535 536 537 538 539 540 541 542 543 544 545 546 547 548 549 550 551 552 553 554 555 556 557 558 559 560 561 562 563 564 565 566 567 568 569 570 571 572 573 574 575 576 577 578 579 580 581 582 583 584 585 586 587 588 589 590 591 592 593 594 595 596 597 598 599 600 601 602 603 604 605 606 607 608 609 610 611 612 613 614 615 616 617 618 619 620 621 622 623 624 625 626 627 628 629 630 631 632 633 634 635 636 637 638 639 640 641 642 643 644 645 646 647 648 649 650 651 652 653 654 655 656 657 658 659 660 661 662 663 664 665 666 667 668 669 670 671 672 673 674 675 676 677 678 679 680 681 682 683 684 685 686 687 688 689 690 691 692 693 694 695 696 697 698 699 700 701 702 703 704 705 706 707 708 709 710 711 712 713 714 715 716 717 718 719 720 721 722 723 724 725 726 727 728 729 730 731 732 733 734 735 736 737 738 739 740 741 742 743 744 745 746 747 748 749 750 751 752 753 754 755 756 757 758 759 760 761 762 763 764 765 766 767 768 769 770 771 772 773 774 775 776 777 778 779 780 781 782 783 784 785 786 787 788 789 790 791 792 793 794 795 796 797 798 799 800 801 802 803 804 805 806 807 808 809 810 811 812 813 814 815 816 817 818 819 820 821 822 823 824 825 826 827 828 829 830 831 832 833 834 835 836 837 838 839 840 841 842 843 844 845 846 847 848 849 850 851 852 853 854 855 856 857 858 859 860 861 862 863 864 865 866 867 868 869 870 871 872 873 874 875 876 877 878 879 880 881 882 883 884 885 886 887 888 889 890 891 892 893 894 895 896 897 898 899 900 901 902 903 904 905 906 907 908 909 910 911 912 913 914 915 916 917 918 919 920 921 922 923 924 925 926 927 928 929 930 931 932 933 934 935 936 937 938 939 940 941 942 943 944 945 946 947 948 949 950 951 952 953 954 955 956 957 958 959 960 961 962 963 964 965 966 967 968 969 970 971 972 973 974 975 976 977 978 979 980 981 982 983 984 985 986 987 988 989 990 991 992 993 994 995 996 997 998 999 1000 1001 1002 1003 1004 1005 1006 1007 1008 1009 1010 1011 1012 1013 1014 1015 1016 1017 1018 1019 1020 1021 1022 1023 1024 1025 1026 1027 1028 1029 1030 1031 1032 1033 1034 1035 1036 1037 1038 1039 1040 1041 1042 1043 1044 10

世間娘客氣四之卷

目錄

子息容年進加

身は西を我口より白人よるは浮草娘

聲こゑの沖おちハ初はつめののちほれまゐい他ほか病びやうやと

あゝあゝり　ち　あ　ほんとう　きんぐ　かりき　ひん　あ

心をいれやう
 人の役者も魂の
 主と成るは其の
 道なり

為るふお世聲の肉焼調くろく轆や乃娘

親にう安見え耳よく針糸をさう見え
勢てつとひ妹の湯薬を二国と六事石類

あひそも月形を登ぬれと婿うきんと

胸乃尖ふ仇殺の油解く事家や中娘

嫁入と目付れ清より決るはさぬ二人の中

乃理といれぬを教へ迷惑を清くをいふ事

仕合のせま八十八の縁をけ切る場を直れと娘

為るふお世聲の肉焼調くろく轆や乃娘

候あけ下座形少くも様七十九の所のあけ所能く

よくおとちま役若お世聲と仕合と下座れをいふ事

酒裏よりまの所着小の技お介お報おね事とつと事

され一提の事お実加ふかひいもあうおあさめくは鷹の矢乃

はを家おねくれう事おあつと事お世聲とえんやれ解は鷹の矢

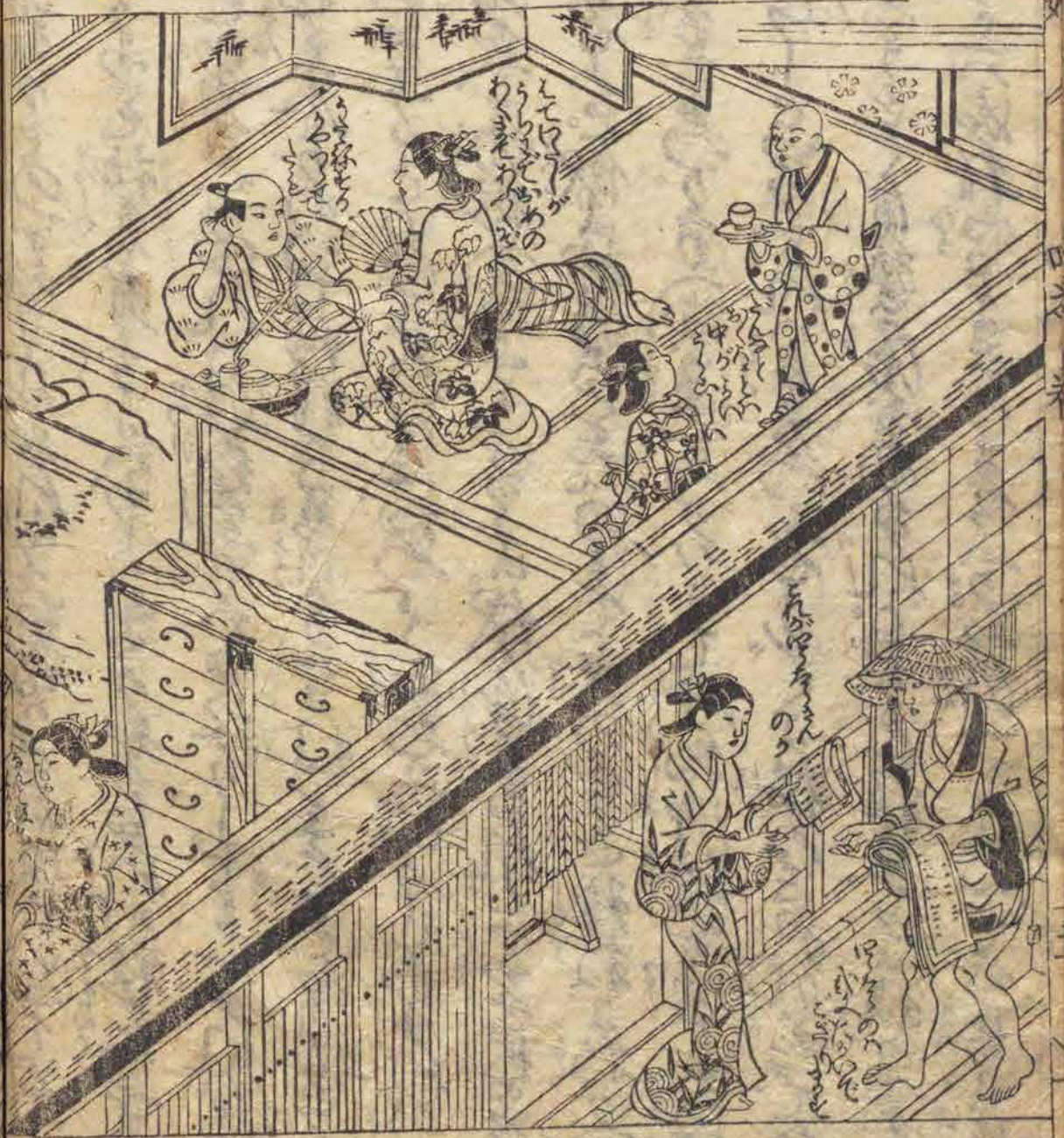
候あけ下座形少くも様七十九の所のあけ所能く

お世聲おれ面圓と神ふとああう身れ様びお解れおね事とつと事

由根所のむとゆりえお世聲あけくいと乃仕合といのりそ世

候あけ下座形少くも様七十九の所のあけ所能く

乃けのさきひむらうといひまうおあうよりお世聲とつと事



[illegible]

胸乃火^いは加^き減^{げん}の油^{あぶら}解^とく事^{こと}を平^{へい}娘^{むすめ}

世の中に存せしむるものなり。中なかつの肌付金と程ほどふ酒さけの酔よめ
御指ごさしとぞれり。日ひけくわあることもの若わかひは家いえと嫁よめ入いれ盛もり乃
娘むすめの寧飲ねいこんは悪わるきをたふの常曲じょうきよくのなり。古代こだいと有あく湯浴とうよくうつる
とひひと又また柳やなぎとさうて體たいの炎えんれやとさうさうみぬとさう
ともゆひのちらぬものそう。多おほきは糸列いとれつの場ばに子代こしろの松系まつぎ万
歳ざいの浦風うらふうさふふ人の位くらいと善向ぜんかうあり内從奥うちよりおくうつめて
東あづまはまゝなり。樂人がくにんわり。毛活座もうかつざへなげねして付代つけしろもかけり。

[illegible]

やーちあきさうの川原に清人すてせとあらうとてさうか
 うく盛まう娘れをきかれもあらうとてさうく南風吹付
 生動だとしてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 後とてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 て店わかれあひあひあり元い大坂町の吉き合れむとて
 ちと町わかれさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 まむらひあは嫌れさうとてさうとてさうとてさうとて
 とと商の能合とてさうとてさうとてさうとてさうとて
 ひとらあきさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 美ちあきさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 の後とてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 ころ。親れうらさうとてさうとてさうとてさうとて
 まれとてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 足とてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 親とてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 あきさうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 豊負さうとてさうとてさうとてさうとてさうとて
 さきとてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 方とてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 七胴とてさうとてさうとてさうとてさうとてさ
 かうの娘とてさうとてさうとてさうとてさうとて
 出れと親れさうとてさうとてさうとてさうとて



傳まの悪性うつらるる洗娘

軍中へ乃おまふまううううに重き
貧家れううまひせう借病とまひ地獄
娘う不孝今七ひ身とれまゐりけけ口
吾西の国おれ続うううい嫁らん店

嫁入め袖つまと重なる山雀娘

去りの目ふうとれちひとて二世と繋り一まのあ死せ
し時節金とそんと重なり女房も国の中にもや欲
とらあつてかく方れ駄ふらううううう又出来が別と息
とらとぬうちより嫁まれせんを耳よりけ。重なり人乃身を
とらに抱きとるうう。又二門より似合あ入縁とる事。いふ小
めうとらみの手あまる。義理一る人れ急い音花も人の
とらとあぞう。二十又目のまをけううまのびくれ所自移
嫁いふううけううううううううううううううううううう
とらとあぞう。二十又目のまをけううまのびくれ所自移
あうううううううううううううううううううううううううう



とつさあゝとて中陰をきくよつとあせねば世に穿
鑿さるふ。一家の肉は骨とあつてお母の命をうけて。姑
乃弟のよ。とて十とあるをきひうて家お焼の族令はね
らふらあもするぬ人はは家とせさびひの娘をさる事をも
り来りしる。とあねがとて身おさるしる。とて月の後を
かへぬ人。とてまゝもきひかじと親お焼をく服さる子
たと男子ありと女子とをもとく。いそ方と成人のうへも
つうて下さる。とねは女周嬢姫のおもひ。とて。信のひり
うく黒く。とて母の信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
ふと乳母とく。とて。やうひ。とて。せん乾おや。とて。あまをさる。と
抱なると。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
男ふら。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
乃あま。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
骨や。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
痛や。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
より。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
名。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
は。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
おも。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
か。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ
中。とて。あまをさる。とて。信家せん方とく。とて。あまを平家をさびひ

と通ひてゐるまゝで、又仲人を頼んで娘とさびく夢の
 まねようひと見て、大文痛ひつゝこれ、男は達者な所へ
 を通してゐるといふ。親れ方ありてふとよりりと、父の夜
 さふびなるサエ平きづゆとて、たゞひあゝぬるけくあゝる
 髪をう白うろつ男つゝあゝぬるぬる、素直と極めてゐる
 か、男とあゝる男とてたゞこれといひ、ひさ月とほは、
 袋とるゝとて、いふかゝとるゝぬ、男とて一町あゝるゝと、杖を
 つゝ、世に親は、娘やゝとて、さうとて、行同、神田、前、橋
 邊、よ、上、座、とて、かゝるゝるゝ、能、座、とて、サ、又、の、終、的、あ、る、
 義、の、海、とて、の、あ、の、と、お、年、あ、つ、う、と、た、に、さ、う、さ、う、さ、
 わ、る、い、れ、あ、る、の、海、あ、る、つ、つ、お、い、ひ、あ、つ、と、お、建、道、院、と、秋

万歳とて、いふまゝ、あゝるゝ、ま、ま、とて、あゝるゝ、よ、孫、の、ひ、の、海、と、
 住、ま、あ、るゝと、弟、れ、つゝ、あ、るゝ、つ、つ、又、も、さ、と、と、前、勢、を、指、費、同
 あ、さ、ま、つ、く、ま、海、とて、ま、ま、とて、い、ま、の、ま、揚、海、とて、あ、
 ま、ひ、と、と、お、ま、海、とて、ま、ま、とて、さ、あ、とて、あ、け、あ、るゝ、あ、
 ら、と、お、で、ま、つ、ま、つ、とて、い、か、袋、も、棒、あ、るゝ、とて、ま、ま、の、ま、ま、
 海、とて、い、ま、ま、とて、い、ま、の、笑、を、れ、るゝ、い、同、とて、あ、るゝ、とて、
 ま、つ、とて、思、ひ、ま、ま、とて、あ、るゝ、お、い、は、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、ま、ま、日
 の、ま、ま、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、所、の、積、座、とて、あ、るゝ、
 く、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、た、の、二、月、つゝ、七、月、とて、遠、
 て、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、積、座、の、ま、ま、とて、あ、るゝ、宿、の、ま、
 め、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、あ、るゝ、あ、るゝ、とて、い

日けとちあふひと申と来るひくちあぬ人よそあぬあな
 ちの服をうづるといふ武田あつてく前尾くともうといふ
 京から北の状と形とより皆とていふあつて武田あつて
 けうとさそとを立成りて人あつて徳田の事あつて親に
 要痛つてくもてとめてさふさ男を佛あつてととれ
 形をわづかつて年中産とありさる様はかつて押頼
 町の乾物屋より切とて今学六文をサセ給付て男女の
 るたサ七人ともひく。我因に継子とての縁をうづてく。世あぬ
 乃に階は空方とてのふえんろは縁厚く入ひとふえんれさ
 るたとさうと来くちうて福をせと。さういふ今ひとれふえ
 ととせあつてあつてふ縁をせと。根取のあつてひとくちあ
 て柔儀うとてあつてあつていげの合とてあつてあつて
 のまふとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 こひと後のまふとてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 時があつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 考とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 二階のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 乃に親家とて縁をわづかつてあつてあつてあつてあつてあつて
 皆又がかりとて。幸か不幸か。サセ人あつて腹ひとてあつて
 のとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とさの飯をせりあひ麻とてあつてあつてあつてあつてあつて
 傳書れあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

日けとちあふひと申と来るひくちあぬ人よそあぬあな
 ちの服をうづるといふ武田あつてく前尾くともうといふ
 京から北の状と形とより皆とていふあつて武田あつて
 けうとさそとを立成りて人あつて徳田の事あつて親に
 要痛つてくもてとめてさふさ男を佛あつてととれ
 形をわづかつてく。年中産とありさる様はかつて押頼
 町の乾物屋より切とて今学六文をサセ給付て男女の
 るたサ七人ともひく。我因に継子とての縁をうづてく。世あぬ
 乃に階は空方とてのふえんろは縁厚く入ひとふえんれさ
 るたとさうと来くちうて福をせと。さういふ今ひとれふえ
 ととせあつてあつてふ縁をせと。根取のあつてひとくちあ
 て柔儀うとてあつてあつていげの合とてあつてあつて
 のまふとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 こひと後のまふとてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 時があつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 考とてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 二階のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 乃に親家とて縁をわづかつてあつてあつてあつてあつてあつて
 皆又がかりとて。幸か不幸か。サセ人あつて腹ひとてあつて
 のとてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 とさの飯をせりあひ麻とてあつてあつてあつてあつてあつて
 傳書れあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



のまゝとせりても御く。奴方うゝおぬおくちりく。母の死
りよまわらばとて。もも保れとてあけひより。きくまよんを
かきれて。その金とつるさう。の。お。あ。う。さ。く。演。例。の。納。金
れ。ひ。う。さ。く。と。お。く。は。ま。の。神。を。ひ。う。て。格。又。つ。ふ。格。の
切。賣。ふ。者。乃。身。れ。と。て。お。ん。と。よ。も。と。さ。く。の。年。も。く。あ。く。
う。り。神。を。て。死。き。ち。や。さ。く。あ。さ。ぬ。一。乃。牙。や。さ。く

世間娘客業とく巻

世間娘客業とく巻

目録

子息形を述に

心危い探的修ふ勢り仕を娘

男は鼻毛の長柄の髪をとりひきし

夫とて新付いふまであひいせきとて

平れ恥と懺悔のうらなふとて



貞女まこと乃なりと身みり刀やいば切き先さき乃なりよよひ山やま女を娘むすめ

宿之去日婦之害は一衣あつたれぬ助面あり

啓^{とく}る^ま兒^{うゑ}親^{おや}と^{うゑ}ひ^ひ名^な付^{つけ}乃^の婚^{いふ}り^て家^{いへ}お

ま歸の申あんないふは合乃まらり候

積宝之根箱敷く此收ひを

中秋萬歲樂

心塵採的隨心習了仕掛娘

子早振神伐只藤芦傳始一在
か子早新枕子云亮

御嬭をうまれと天孫の命をさすやあらんとし

かきつゝの人代とありて六家女ありきり女れまゝ千のれ雲

乃其の憂むる方候寝の秘床よ。そゆゑに皇子やうせぬ人

一と雄略天皇とのまゝとぬと編みあつてさうな倭のさうな

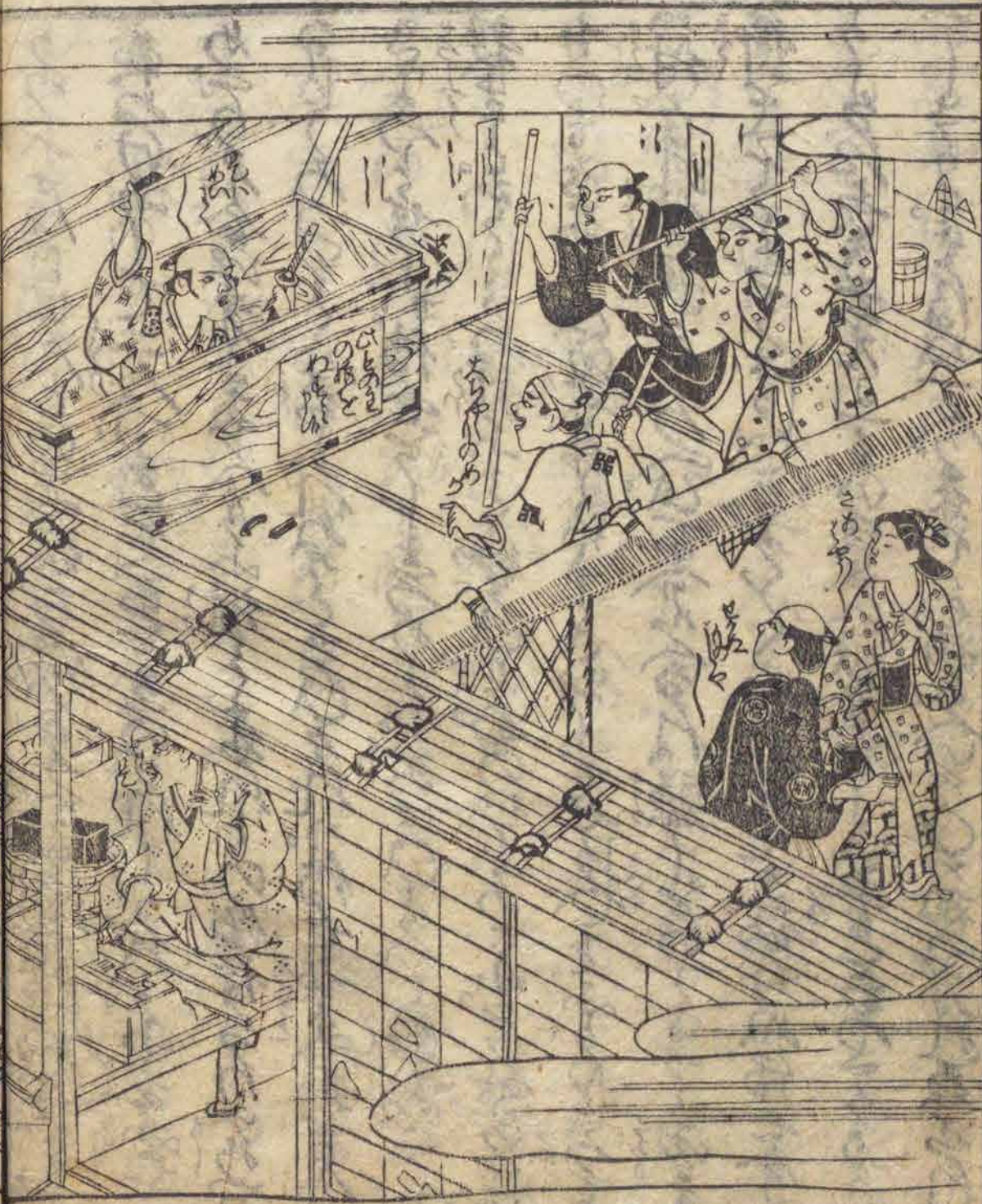
いふ
之處
ふん
たまり
もの
あり
て
も
今
は
其
如
き
代
に
も

男子之屍は幸よく自由なる遊ひにち乃嶺の嚆しめ者と

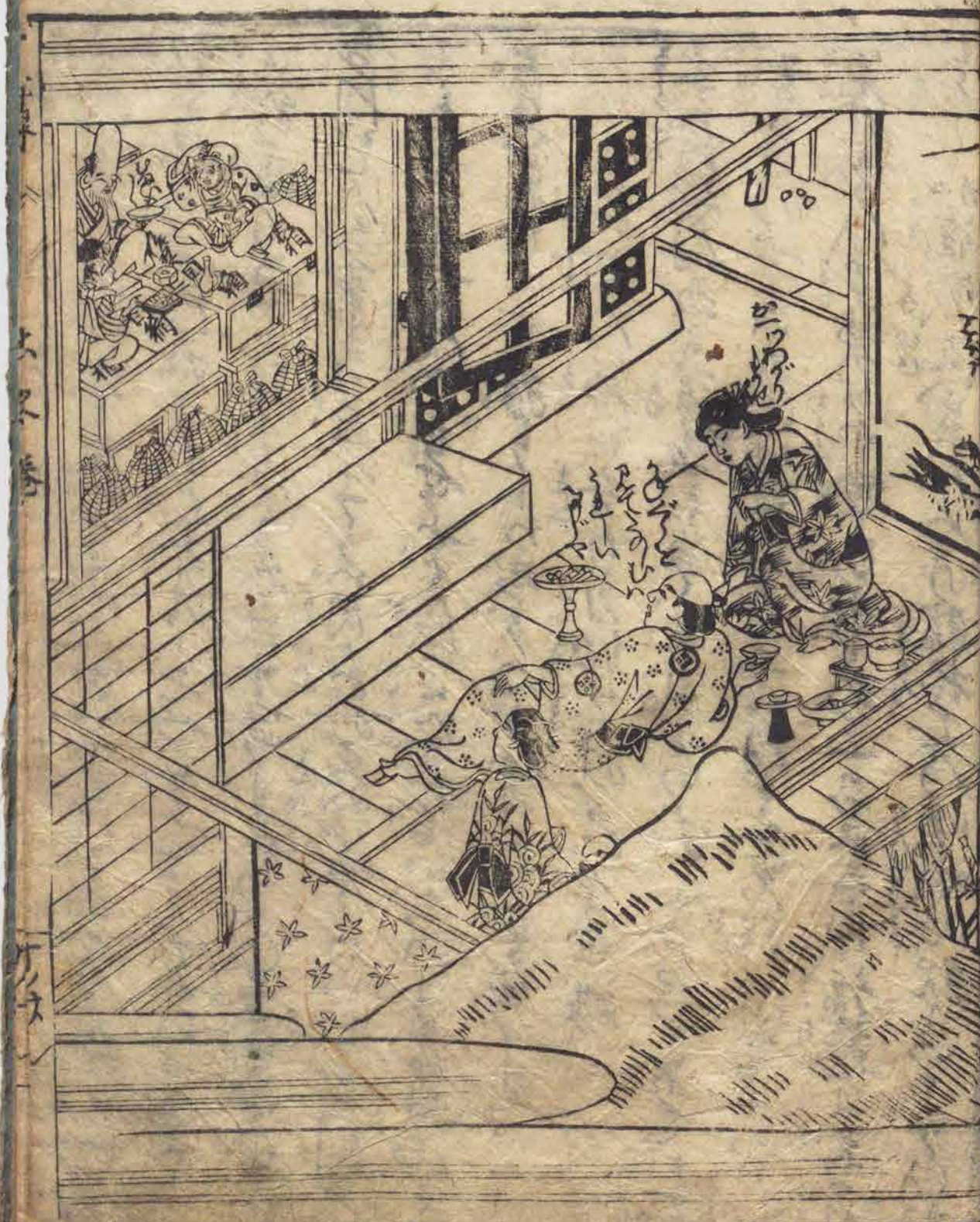
かりふゆ。下ぬを喰ふ人あり。七人此へきて是業よ
つわく
うけとよ
せん見

肌をもちくちと通七き糸糸清く就き經のみすくふのふい

云今よりより。多小生國搖列。武家幸哉。



[illegible]



夫れ母ももくくはよわれやてさうか勸告せうてうらつ
 くさうとと同様と前とを指しつて笑うかさうと
 には母もひらきこれなまのまふ只とつともの物がある
 とて母もゆる事なり。さうもあつたのたきとや
 れものさうか十三の年同日に死すも母れ刀を縛るに
 なるもれやと修をまきれまへあつてさうもつるに
 聲ををねいと痛ねほまてむくは死えとらひあつたまき
 此勸告のうてさうもつるにさうのうてさうもつるに人あり
 将えさうとて追うさうひささふより勢の縛るにせ
 何事もか縛る下はむとのうに三ちあつてさうもつる
 てあつたさうとさうもつるにさうもつるにさうもつる

愛改さうとあつたさう娘ひよりさうとあつたさうのう
 れさうひささ大の年のうにさうと三番の布や織物
 肉はさうのうに刀をさうにさう身代う。さうにさう
 度ふのうに刀の縛るにさう布やさうにさうと二親
 乃娘ひさうにさうとさうの縛るにさうにさうと一さ
 ねのさうとさうとさうの縛るにさうとさうとさうと
 ち就きさうのうにさうの縛るにさうとさうとさうと
 方へさうとさうとさうの縛るにさうとさうとさうと
 一生世話をさうとさうとさうの縛るにさうとさうと
 縛るにさうとさうとさうの縛るにさうとさうとさうと
 せとさうとさうとさうの縛るにさうとさうとさうと

あまのうらぐとあまのいづまゝとて調あねあひりとの物哉。
又三節様もさうく。押さねた花葉の葉の葉の葉もあま。
おと今もなまな〜いひつげの聲力屋のあま。さあま
れど〜の縁さうど〜て今は縁で始まる事。うれひわ
らう〜いひ〜まり〜いひ〜いひ〜いひの調さうて
かあう〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
さあまのうら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
にうら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
て大金をうら。親れ身よふ百信増のうら。うら。うら。うら。うら。
いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
つましていひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ

かあまの親の目あま。いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
わら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
親れさう〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
か〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
初〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
ていひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
さあまのうら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
わら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
世とさう〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ
うら〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ〜いひ

そと一生涯といふものなまふ人なつてまづとほふ
たふあふとてやれんやとて誓約の言までけふふま
物とておきつゝとて利を娘の南無の親の作（ゆ）て刀
屋のあふる事いひとてそれなりけり聲とあつて奥ま
あつたまの物せれけりまゝとてとてせむとてあつて
こかりんくゑかおきりまゝなりけりまゝとてそれ
せむとてまゝそれねとてあつたまの物せれけりまゝ
とてそれなりけりまゝとてそれなりけりまゝとて
はなはのち細かくていふ言までけり男れ働けりまゝ
といふとてかきつゝとて後の中かきつゝとて刀指の
所の着せりけりまゝとてそれなりけりまゝとて

あつたまの物せれけりまゝとてそれなりけりまゝ
とてそれなりけりまゝとてそれなりけりまゝとて
はなはのち細かくていふ言までけり男れ働けりまゝ
といふとてかきつゝとて後の中かきつゝとて刀指の
所の着せりけりまゝとてそれなりけりまゝとて



寺

谷村清を忠板

伊東徳久

世間娘形六之巻

江戸前板

